

●第26回さくら喫茶開催  
(令和4年6月25日)

当院では地域住民の方々に認知症について楽しく学んで頂くため、定期的にさくら喫茶を開催しています。今回は、頭と身体を使った認知症予防体操と「クイズ有田市」を実施しました。昔懐かしい有田市の商店街の写真や出来事などについて参加された皆さんから会話が飛び交い、とても和やかな時間となりました。



●七夕会(令和4年7月7日)



今回は、車椅子でもできる体操で体を動かした後、ミニゲームで金魚すくいを行いました。最後には皆さんに七夕ゼリをいただいてもらい、笑顔あふれる時間となりました。

●新入職員紹介

腎センター  
臨床工学技士

にしはら しゅうへい

西原 修平

(入職日 令和4年6月1日)



6月から入職し、少しずつですが業務に慣れてきました。まだまだ覚えることがたくさんあり、ご迷惑をおかけすると思いますが、一日でも早く力になれるよう頑張ります。

# さくら通信



第52号  
2022.7



医療法人 千徳会

## 桜ヶ丘病院

院長 成川 暢彦

〒649-0304 和歌山県有田市箕島904  
TEL : 0737(83)0078 FAX : 0737(83)0079  
E-mail : sakura\_2007@cherry-hill.or.jp  
http://www.cherry-hill.or.jp

●地域連携室  
TEL 0737(83)0829



■診療科目等

- 内科(呼吸器・循環器・消化器・糖尿病・脂質代謝)  
腎臓内科(人工透析)・脳神経内科・脳神経外科・皮膚科・泌尿器科  
婦人科・眼科・リハビリテーション科・放射線科・各種健診・人間ドック
- 入院許可ベッド数 99床  
一般病床:49床(特殊疾患病棟入院科1)  
医療療養病床:50床(療養病棟入院基本科1)
- 腎センターベッド数37床(最大受入患者数114名)(夜間透析実施中)

■医療法人千徳会

- 本部 〒649-0304 和歌山県有田市箕島1265  
電話 0737-83-0881 FAX 0737-83-0079
- さくら訪問看護ステーション 〒649-0305 和歌山県有田市港町29-1  
電話 0737-83-0077 FAX 0737-83-0079



### 千徳会 理念と基本方針

千徳会理念

1. 信頼される医療
2. 安心・安全の医療
3. 慈愛あふれる医療

基本方針

1. 思いやり(相手の立場になり考える)
2. 感受性を豊に(小さなことにも感動を)
3. 創造性(常にチャレンジ)
4. 合理性(道理に適い能率的に)
5. 自己研鑽(常に学習を)

経営理念

「職場は、職員共同の生活の源泉であり、人間完成の道場である」  
「我々は最大の病院になることを望まず、最良の病院になることを望む」

■社会福祉法人守叅会

- 特別養護老人ホーム田鶴苑(介護老人福祉施設-短期入所事業)  
〒649-0316 和歌山県有田市宮崎町911 電話 0737-82-6644 FAX 0737-82-6609
- デイサービスセンター田鶴苑(通所介護事業)
- 訪問介護田鶴苑(訪問介護事業)
- 有田市在宅介護支援センター(居宅介護支援事業)
- 特別養護老人ホーム愛宕苑(介護老人福祉施設-短期入所事業)  
〒649-0305 和歌山県有田市港町9-1 電話 0737-82-0600 FAX 0737-82-0606
- デイサービスセンター愛宕苑(通所介護事業)
- ケアハウス愛宕苑(地域密着型特定施設入居者生活介護事業)
- グループホーム愛宕苑(認知症対応型共同生活介護事業)  
〒649-0305 和歌山県有田市港町29-1 電話 0737-23-7177 FAX 0737-83-5501
- 特別養護老人ホームありだ橋苑(介護老人福祉施設-短期入所事業)  
〒649-0314 和歌山県有田市野639-2 電話 0737-83-6255 FAX 0737-83-6260
- デイサービスセンターありだ橋苑(通所介護事業)
- 養護老人ホーム長寿荘(養護老人ホーム)  
〒649-0315 和歌山県有田市山地57 電話 0737-82-2946 FAX 0737-83-2640

## 大腸内視鏡検査について

令和4年4月より、当院では大腸内視鏡装置を導入し、日本消化器内視鏡学会の専門医が安心・安全な大腸内視鏡検査と処置(ポリープ切除など)を行っております。また、検査を控えた患者さんが人目を気にせず過ごしていただける個室の控室や専用の待合ロビーを設けました。テレビやアクアリウム、Wi-Fi完備するなど、環境面も充実させ満足度の高い医療をお届けできるよう努めています。



待合ロビー



健診控室

## 「オンライン診療」始めました!

「忙しくて病院に行く時間がない」「仕事の合間に受診できたら…」など、通院が難しいという患者さんの要望にお応えできるようにメドレー社のオンライン診療・服薬指導アプリ『CLINICS』を導入し、6月よりオンライン診療を開始しています。

内科(生活習慣病)、婦人科、健康相談、栄養指導等を行っています。

詳しくはホームページをご覧ください。



# 大動脈弁狭窄症について

和歌山県立医科大学循環器内科

たなか あつし  
教授 田中 篤 医師

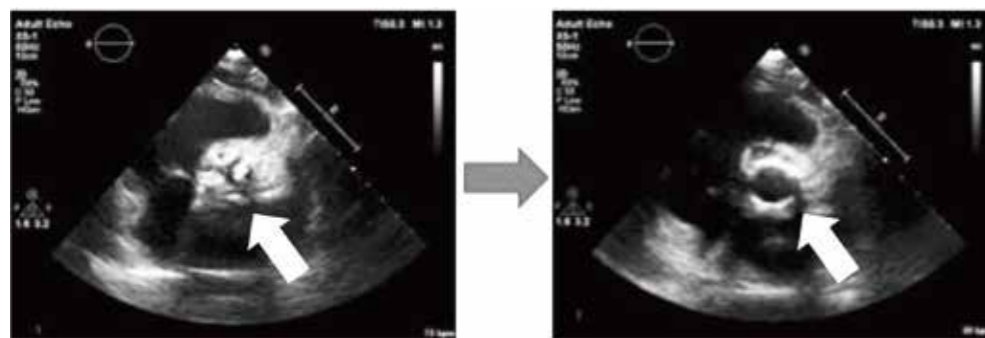


大動脈弁は、全身に血液を送り出す左心室と、大動脈の間にある一方弁です。この大動脈弁が何らかの原因で弁の開放が悪くなり、心臓から全身へ十分な血液を送り出せなくなる病気が、大動脈弁狭窄症です。高齢化に伴い大動脈弁狭窄症は世界的に増加しています。典型的な症状としては、動いたときに息切れや呼吸のしにくさを感じる、胸の痛み、足のむくみ、動悸、疲れやすい、気を失うなどです。高齢者では「年のせいか」と症状に気づいていない場合がよくあります。

診断はトレーニングを受けた循環器内科医であれば、聴診器で胸の音を聞くだけで診断する事が可能です。当院では、医大から二名(私と北端宏規准教授)が外来診察を行っています。

治療ですが、基本的に中等症までは経過観察します。もしも重症となった場合は手術が必要となります。これまでは開胸手術(外科的大動脈弁置換術)が行われていましたが、最近、体の負担が少ないカテーテル治療(経カテーテル大動脈弁置換術)が登場しました。必要があれば医大と緊密な連携をとり治療を行います。

弁膜症が気になるようでしたら、是非一度受診していただき、我々に相談ください。



手術前は大動脈弁の開放が悪く、ほぼ塞がった様に見えるが(矢印)、手術後は良好に開放している

## ●第46回桜ヶ丘病院研究発表会(令和4年4月16日)

感染防止対策を考慮し、当院および関連施設の8会場から参加するオンライン形式で行い、各部門・委員会から計8題の演題発表を行いました。

最優秀賞 嚙下・栄養サポートチーム 管理栄養士 岩本由貴

「栄養に対する病棟スタッフの意識向上を目指した取り組み」

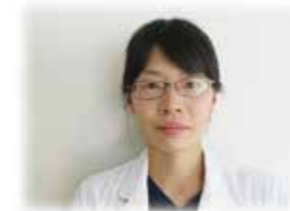
### ★特別講演

和歌山県立医科大学消化器内科准教授 井口幹崇先生に「内視鏡治療の最前線」のテーマで内視鏡の基本から各種治療法の紹介などについて分かりやすく講演していただきました。



# 医師紹介

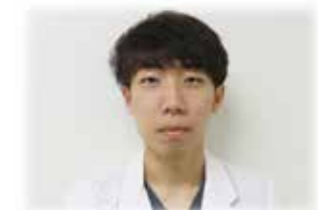
きた あやこ  
●腎臓内科 北 綾子 医師



平成28年3月 和歌山県立医科大学医学部卒業  
同 4月 和歌山県立医科大学附属病院初期研修医  
平成30年4月 紀南病院 内科  
平成31年4月 ひだか病院 第1内科  
令和 2年4月 国保野上厚生総合病院 内科  
令和 3年4月 和歌山県立医科大学 腎臓内科

令和4年5月より月曜日午後の腎センター回診を担当しております腎臓内科の北綾子と申します。血液透析は低下した腎臓の機能を補うため、週3回、1回約4時間の時間をかけて、体内の老廃物や水分を排出する治療であります。患者様、また腎センタースタッフの皆様としっかりコミュニケーションを取ることで、個々の患者様の病状に応じた適切な血液透析を中心とした治療を行うことができると考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

おおにし のりゆき  
●消化器内科 大西 紀幸 医師



令和2年3月 近畿大学医学部卒業  
令和2年4月 和歌山県立医科大学附属病院初期研修医  
令和4年4月 和歌山県立医科大学 第二内科 学内助教

令和4年4月より火曜日の腹部超音波検査と上部内視鏡検査を担当しております大西と申します。みなさまとは、検診やドックなどの検査の際にお会いになると思います。内視鏡検査にて早期の病変を見つけ、早期治療に結びつけるようなお手伝いできればと思います。私自身、祖父母が有田川町在住であるということもあり、その周辺地域で医療に貢献できることは大変光栄なことであり、日々精進していきますので何卒よろしくお願いいたします。

## ●第67回日本透析医学会学術集会・総会 令和4年7月1日(金)~3日(日) 於:パシフィコ横浜

◆ポスター発表  
『透析患者の服薬状況調査と内服支援を通して』  
腎センター 看護師 谷中賀也

服薬アドヒアランス不良の透析患者に指導や多職種連携、家族の協力など個別的に介入することで、残薬や飲み間違いが減少し、服薬アドヒアランスの向上につなげることができたという内容で発表を行いました。



## ●防災訓練(令和4年6月28日)

有田市消防署立ち合いのもと、夜間に火災が発生した想定による消火及び避難訓練を実施しました。消火器や消火ホース、避難経路の再確認を行い、その後、消火器を用いた消火訓練も行いました。

